

2018(平成30)年度 法学既修者入学試験問題(2月試験)

刑法

(90分, 総点100点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は、表紙及び余白を含めて4ページで、設問は1問ある。
2. 解答用紙は1枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

〔設問〕以下の事例に基づき、甲の罪責を論じなさい。なお、問題文中の供述は信用できるものとする。

K県にあるY大学3年生の甲（女20歳）が、20XX年7月11日、部活のため帰宅が遅くなり、JR線T駅4番線ホーム最後尾車両の乗車位置付近に到着したのは、午後10時20分頃であった。間近にあったベンチでは、同県内にある私立の一貫教育校、学校法人X学園の理事長V（53歳）ほか4名の一行が、理事会の打ち上げ酒宴を終え、二次会のため繁華街に繰り出そうと、酩酊してふらついた状態で電車を待っていた。

甲を見たVは、甲のミニスカートとプラチナブロンドに脱色した頭髪が気に入らず、「Y大学には学校をキャバレーと間違えている馬鹿な学生がいるようだ。」「ああいう馬鹿女を入学させるからY大学はダメなのだ。」等と、甲に聞えよがしの大声で自分の取り巻きに話し始めた。甲は、不快に思いつつも、この乗車位置から乗る方が自分の下車駅で出口に近かったことから、しばらく知らんぷりをしてやり過ごそうとしたが、Vの侮辱的言辞が執拗であったため、やむなくその場を離れることにし、前方の乗車位置へ移動を開始した。ところがVは、この態度も気に入らず、ベンチから立ち上がり、甲の後方から追いついて「聞こえてるのか、馬鹿女」と言いながら、甲の後頭部を右の掌（てのひら）で2・3回突いた。甲は前のめり倒れそうになったが、姿勢を立て直し、「何よ、あなたに関係ないでしょ?」と言い返して、その場を離れようとしたところ、Vは「待て、馬鹿女!」と言って、今度は右足で甲を蹴ろうとした。甲は危うくこれをおかわしたが、たまりかねて、このやりとりをゲラゲラと笑いながら聞いているVの取り巻き4名に向かって「あなた達も知り合いなら、笑ってないで止めてくれたらいいじゃない。」と言ったが、Vを止める者はいなかった。

取り巻きによる仲裁をあきらめた甲が再度立ち去ろうとすると、Vは「もう行ってしまおうのかね。残念だな、もう少しおじさんの相手をしろよ。」と言いながら、甲に背後からかぶさるように抱き付き、両腕を前に回して、その胸を驚づかみにした。甲は、一連のVの言動に憤激すると共に、このまま受け身でいたのでは、このうえ何をされるかわからないとの思いから、Vの両手を振りほどいて、振り向きざま、「酔っぱらってからむのは、いいかげんにして!」と叫んで、立ったままの姿勢で、足を踏み出したり、はずみをつけたりはせずに、Vの両肩を両手で突いた。この場所からホームの端まで3.5メートルの距離があったが、目撃者は、「Vは、押されてよろめきながら1メートル程下がり、その

後、おとっと、という感じでバランスを崩すようにして4・5歩後退して仰向けに倒れ、倒れた場所がちょうどホームの端だったので、上半身がホームからはみ出し、倒れた勢いで一回転するようにして線路上に転落した。」と証言している。

ちょうどその時、4番線に電車が入ってきた。Vは、酔っていたうえに、思わぬ事態に動転していたため、落ちたホームと反対側の5番線側の線路の方に退避すれば容易に難を逃れることができたにもかかわらず、同じく動転した取り巻きがホーム側からVを引き上げるべく手を差し伸べたのにつられて、これにすがりついた。だが、この救出作業は間に合わず、Vは、ホームに入ってきた電車の車体右側と同ホームとの間に下半身を挟まれて圧迫され、胸腹部圧迫による大動脈離断により即死した。

なお、電車の到着の駅内アナウンスは甲がVを突く直前になされており、Vの取り巻き4名はこれに気づいていたが、甲とVは一連のやり取りに気を取られて気づいていなかった。甲は、Vを突いた点について、「それほど強く突いたつもりはないが、胸を触られたりして憤慨したのもあって、転んで怪我をさせるくらいは仕方ないとは思っていた。まさかホームから線路に落ちるとは思わなかったし、ちょうどその時に電車が入ってくるとは思わなかった。」と述べている。

以上

余白